

No.837 August 2026

ASAHI MACHI

Public Relations

広報 あさひまち

自然って
楽しい!

2026

8

No.837

おうぎだ
扇田 (扇…FAN) から、驚き (WONDERFUL) を――

“FANDERFUL RICE NOODLE” 新発売



◀左から(上)鈴木浩幸町長、伊藤理花氏、伊藤耕平副町長
兼株式会社朝日町総合産業開発代表取締役社長

▲棚田米を天日干しする様子

7月21日、日本の棚田百選にも認定されている榎平の棚田で育てられたお米を使用した新商品「FANDERFUL RICE NOODLE」のお披露目と試食会が、りんご温泉で開催されました。

町と株式会社朝日町総合産業開発が共同開発した本商品は、地域活性化起業者として活躍する伊藤理花氏が企画・プロデュースを担当。棚田の「天日干し自然乾燥米」を玄米のまま使用し、その香ばしさともっちりとした食感を楽しめ、まったく新しいお米麺です。

伊藤氏は「この商品を通じて棚田保全の活動などがより広まり、そこからこの文化の後継者が増えればうれしい」と語りました。

試食をした人からは「とてもコシがあり、モチモチ」「新しい食感と風味で驚き」「本当にお米を食べているような感覚」といった感想が寄せられました。

商品は、りんご温泉・道の駅あさひまち・Asahi自然観の3施設にて販売を開始しています。また、今後はふるさと納税の返礼品やECサイトでの販売も予定。お立ち寄りの際は、ぜひ買い求めください。

(※16頁に関連記事)

目次 CONTENTS

- P2 町長歳時記
- P3 Pick Up News
“FANDERFUL RICE NOODLE” 新発売！
- P4 特集
人との関わり・自然を学ぶ
～朝日ナチュラリストクラブとは～
- P8 町政スポット
・あさひワークライフキャンプ 2026
・第1回 寿大学 ほか
- P10 まちレポ
・朝日町の義経伝説を訪ねるツアー
- P14 ・朝日中1年 浴衣着付け教室 ほか
- P16 開催通算 10 回目！ 寺フェス '26
我ら地域活性化起業者
- P17 山形交通をご利用の 75 歳以上の方へお知らせ
- P18 それいけ協力隊とウサビ、町立図書館コーナー
- P19 健康あさひるばんざい、朝日町の神社と御堂
- P20 戸籍のまど、となりのリンゴさん ほか
緑が丘公園で夏まつり開催

表紙の写真



7月4日から5日にかけて、「朝日ナチュラリストクラブ」の夏キャンプが実施されました。表紙はその2日目、朝日川での川遊びの際の様子です。岩でできた自然のウォータースライダーに、子どもたちは大興奮。何度も滑って楽しんでいました。今号の特集では、この日の模様も含めて、朝日ナチュラリストクラブの活動を紹介します。(4～7頁)

町長歳時記 (232)

行き先のない切符 ～見えてくる真実の積み重ね そこに進むべき道がある～

「空港のカウンターで、ただ『チケットをください』とだけ言っているようなもので、行き先を伝えなければチケットは買えない」
ある本を読んでいたら、こんな一節に出会いました。

次に、「だから、何を目標しているのかを教えてください。私を手助けのしようがないし、それは君にしかわからないんだよ」と続けました。

4年前に大学を卒業したある青年が、キャリアに関する悩みを相談するために筆者のもとを訪れたというのです。筆者は彼に「君は転職について相談しに来たんだよね。どんな仕事を探しているの？」と尋ねると、「ええ、まさにそれについて先生の知恵をお借りしたくて。自分が何をしたいかわからないのです」と青年は答えました。

「う～んっ」と唸った私の心に、全く同じ思いが過去にあったことを思い出しておりました。

自分は何者なのか。自分は何を求めているのか。自分はどんな人間になりたいのか。そんな悶々とした思いの中で、青春を費やしてきた若者が、確かにいるのではないかと、私自身の過去を見つめ直した時、そう思わずにはおられませんでした。つまり、もがき、這い上がり、そこから一筋の光のもと、自分の進むべき道を掴み、駆け上がっていく。人生とはそんなものではないかと思うのです。

今やるべきことに真摯に向き合い、たとえそれが自分の望む仕事ではなかったとしても、それを真面目に行っていくことで、見えてくる真実があるのです。その積み重ねが自分を支える骨格となり、次のステップにつながる大きな教えになるのです。

自分を信じ、決してあきらめない挑戦の心を持ち続けることにより、『行き先のない切符』が『行き先のある切符』となり、自分の進むべき道として、自ずと目の前に現れて来るのです。

朝日町長 鈴木浩幸



- 1./2. 春日沼での水遊び
 3./4. 1日目の夕食のカレーを、みんなで作りました
 5. 夕食後に立木地内をナイトハイク（お散歩）して見つけたホタル
 6./7. 旧立木小学校の裏を流れる朝日川で川遊び
 8./9. キャンプの最後は流しそうめん

参加者の声

キャンプが
とても楽しくて、
毎年参加しています！
春日沼で水遊びできたのが
楽しかったし、
水の中で自由に遊べたのが
気持ちよかった！
（さくらさん）

ホタルを
見たことはあったけれど、
こんなにいっぱい
飛んでいるのは初めて。
キャンプ参加も初めてで、
みんなと泊まれてうれしかった！
（杏奈さん）

鈴木さくらさん（3年）
杏奈さん（1年）



高橋晴さん（6年）
源さん（5年）

夕食のカレーを
去年より上手に作れたのが
うれしかった。
今年で最終年度だけど、
これまでいろいろな活動に
参加できて楽しかった！
（晴さん）

1日目の
ナイトハイクで、
光っているホタルをたくさん
見られたのがうれしかったし、
きれいだった。楽しかったので、
また来年も参加したい！
（源さん）



特集

人との関わり・自然を学ぶ

～朝日ナチュラリストクラブとは～

1984年、発起人である故・西澤信雄さんが「日本に誇れるこの町の自然との遊び方を、子どもたちと一緒に楽しく学べる場があれば」と立ち上げた「朝日ナチュラリストクラブ」。創設から42年という長い歴史の中で、多くの子どもたちが豊かな自然との親しみ方を学び、共に遊んで、成長してきました。

今号では、西澤さんの理念を継いで活動するクラブの運営メンバーにお話を伺いながら、活動が長く続いてきた秘訣を探ります。

子どもと大人がともに遊ぶ
 朝日ナチュラリストクラブは、町内の小学1～6年生を対象に、年間を通して自然体験活動を行うクラブです。幅広い学年の児童が協力しながら活動を楽しんでおり、これまで参加した児童は、総勢724人を数えます。
 また、運営はボランティアで参加する指導者の皆さんが担っています。

年に一度のキャンプ

7月4日と5日の2日間、旧立木小学校を主会場に、恒例の夏キャンプが行われました。両日とも快晴に恵まれ、参加した子どもたちは自然の中で思い切り遊ぶことができました。

キャンプは体育館でのテント張りからスタート。春日沼（ハツ沼）に移動してカヌーなどの水遊びを楽しんだ後は、旧立木小学校に戻り、みんなで協力して夕食のカレー作りに挑戦。一日目の最後は、立木地内でナイトハイク（ホタル探し）。幻想的に舞う多くの淡い光に、子どもたちは大興奮でした。

翌日は朝食後に、朝日川で川遊び。沼とはまた違った流れのある水遊びを楽しみました。お昼には竹で作った流しそうめんを味わい、大満足の2日間を終えました。

※春日沼は通常、水遊び禁止です。今回は特別にハツ沼区の許可を得て、講師が付き添い、安全を確保したうえで実施しました。

活動紹介

今年はこんなことをしました

春の和合平散策
5月10日(日)



ハツ沼七不思議散策
6月14日(日)



【今後の活動予定】

- 9月5日(土)：ツリーイング(木登り)体験
- 11月29日(日)：フルーツ飴&パンケーキ作り
- 1月末：雪のナチュラリスト教室
(雪洞づくり、ソリ滑り)
- 3月7日(日)：うどんづくり&認定証贈呈

クラブよりお知らせ

会員受付は毎年4月頃発行の「お知らせ板」で告知し、説明会を開催しています。

子どもの会員だけでなく、指導者も募集しています。

▶参加対象

- ・子ども会員…町内小学校の1～6年生
- ・指導者会員…子どもたちと自然や文化を楽しんでくれる18歳以上の方

▶参加費 年会費：1,000円(保険代)
(ほか活動ごとに材料費など実費負担あり)



事務局 ^{にしざわ しんじ} 西澤 新地 さん(西原)

**子どもの頃とは違う
楽しみがある**

20年ほど前、家業を継ぐために朝日町に戻ってきました。その際、クラブの指導者として活動していた両親に誘われ、また、自分も子どもの頃に参加者として楽しく活動していたことを懐かしく思い出して、加入しました。

驚いたのは、当時お世話になった指導者の皆さんが現役で参加されていたことです。自分も立場が変わって指導者側に立ってみると、子どもの頃とはまた違った楽しみや発見の連続で、継続して関わるようになりました。

全員で楽しむ意義

子どもの私が接していた頃から、クラブ指導者はフレンドリーで、視線が近かったという感覚がありました。陰ではさまざまな苦労もあったでしょうが、活動中はそれを感じさせず、子どもたちと一緒に遊んで遊び、笑い、驚き、喜ぶ。時には子どもたち以上に全力で、それが子どもたちにも伝わり、子どもたちも楽しく活動する。今思えば、そうした雰囲気だったように思います。

この「大人が楽しむことを忘れない」という意識は、私たち指導者間でも共通して持っているもので、クラブ発足の大きな理由になったと考え

ワクワクを、これからも

小学校低学年も対象としたことで、子どもたちの安全管理を担う責任がある以上、活動内容は以前よりもソフトに、気軽に行ける場所になっていきます。とはいえ、工夫しながら我々指導者にとっても新たな発見があったり、ワクワクするような活動を考え、子どもたちと一緒にこれからも楽しんでいきたいと思っています。

指導者の声

参加する子どもたちにさまざまな自然との遊び方を教え、安全な活動ができるように見守る指導者の皆さん。

ここでは、クラブの代表を務める松田勝美さんと、事務局であり、クラブ発起人の西澤信雄さんの息子さんである西澤新地さんに、このクラブへの想いや、楽しく活動が続ける秘訣などを伺いました。



代表 ^{まつだ かつみ} 松田 勝美 さん(栄町)

活動を継続するために

宿泊を伴う活動もあり、その内容などを考慮して、以前はクラブへの参加は小学校3年生以上としていました。しかし、近年は子どもの数も減少している中、楽しく活動するためには、ある程度の人数がそろわないと難しいと考えました。

そこで、全員が安全に、楽しく活動できるように、事業内容の見直しも行いながら、2年前に小学1年生以上に対象を拡大しました。今では低学年の児童たちからも、たくさん参加してもらっています。

ふるさを想う気持ちを

この活動を通して、子どもたちには自分たちのふるさとである朝日町の豊かな自然や人々の暮らし、この地域が持つ歴史を「素晴らしいな」と感じられる感性を持った大人になってもらいたいのです。そして、その感性を持って、これから先も多くの壁にぶつかることがあるかもしれませんが、何事も経験と楽しんでもらえたら何よりだと思っています。

**自然教室参加から、
縁あって指導者へ**

当クラブに指導者として参加するようになったきっかけは、私自身が子どもの頃に遡ります。当時、町の教育委員会が主催していた「自然教室」に参加し、その後も高校生ボランティアとして関わる中で、とても素敵な活動だと感じていました。

その自然教室にはナチュラリストクラブ設立の主要メンバーが指導者側で関わっていたという縁があり、クラブ発足間もなく、私も運営に携わってみたいかとお誘いいただきました。指導者の立場として加入してから、気付けば40年余りになります。

ともに考え、楽しむ

自然界には危険なこともたくさんあります。もちろん活動は安全第一ですが、危険なことをあらかじめ取り除いておくのではなく、どんなことが危険で、どう対処したらいいのか、大人としてしっかり伝えられるように意識しています。子どもたちが自分の力で考え、困難を乗り越えられるような関わり方ができるようにとの想いからです。

これはクラブの活動方針でもあります。大人が子どもに一方的に教えるという形ではなく、ともに考え、ともに楽しむという視点を大切にします。子どもたちが自分でいろいろと試してみる中で、さまざまな気づきがあればいいなと考えています。

クラブOBの声



^{ともたか} 田中 友崇 さん
(朝日町役場勤務)

クラブの思い出

ナチュラリストクラブには、小学校3年生から6年生までの4年間所属しました。もともと野外活動や動植物が好きで、自然の中で遊びたいと思ったのが入会のきっかけでした。夏キャンプももちろんですが、冬に朝日少年自然の家(大江町)に宿泊し、みんなで雪合戦をしたことが強く記憶に残っています。普段の生活の中ではあまりできないような体験ばかりでとてもいい経験でしたし、自然と触れ合うことでリラックスにもなりました。

活動で得た学び

クラブでの活動では、多くの人たちとの関わりを通じて、あいさつや礼儀、感謝することなど、人として当たり前のことを学べたことが、大人になった今でも確実に活きていると感じます。また、現在もキャンプなどの野外活動を趣味としており、当時教わったテントの立て方や効率の良い火のおこし方などの知識は、今でも忘れず活用できています。ここで得た学びや経験は、一生ものの財産になったと思います。

朝日町中学生海外派遣事業 出発式

■教育委員会 ☎67-3302



▲9人の生徒が台湾で研修を行います

町では、グローバルな視点を持ち、柔軟な思考で将来も幅広く活躍できる人材を育てるため、「中学生海外派遣事業」を実施しています。

平成28年度から開始されたこの事業。今年度は台湾・台北市を中心に、朝日中学校3年生9人を派遣します。その出発式が7月30日に創遊館で開催され、派遣生たちは出発前の最終確認と決意表明を行いました。



式ではまず、鈴木浩幸町長が「皆さんの、前向きにさまざまなことに挑戦したいという気持ちはとても大事です。大きく成長できるよう、最後まで元気にチャレンジし、頑張ってください」と激励。これを受け、派遣生は「失敗を恐れずに積極的にコミュニケーションを取り、現地の文化や伝統に数多く触れ、たくさん学びを持ち帰りたい」と決意を述べました。

8回の事前学習を終えた派遣生たちは、8月3日から7日まで台湾で活動します。帰国後は6回の事後学習を経て、11月の町芸術文化祭で現地での学びや経験を発表する予定です。

あさひワークライフキャンプ2026

■政策推進課 ☎67-2112



▲白田忠一大谷連合区長と斎藤天音隊員による大谷地区のまちづくりについての講話（大谷往來館にて）

7月18日から20日にかけて、2泊3日の日程で「おためし地域おこし協力隊 あさひワークライフキャンプ2026」が行われ、県内外から9人が参加しました。

この企画は、実際に朝日町で仕事と暮らしを体験してもらい、町のファン（関係人口）を増やすとともに、将来的に地域おこし協力隊として町で活動してくれる方を増やすために開催したものです。

参加者は3日間にわたって町内を巡り、まちづくりに関する講話や農業体験、芋煮づくりなど、朝日町ならではの体験を通して、地域での暮らしや協力隊としての働き方を学びました。



関東圏からの参加者の一人は「みんなでつくる朝日町の未来ナイト」に参加し、実際に町を訪れてみたくなった。町で活躍する先輩協力隊の皆さんと交流し、活動内容も具体的にイメージでき、町や協力隊への関心がさらに高まった」と話していました。

※みんなでつくる朝日町の未来ナイト
5月21日に東京で実施した、地域おこし協力隊などのゲストとの交流を通じて、町の魅力を伝えるイベント。

広報紙でふるさとのおくもりを… 定期購読 受付中



「町外に住んでいるけれど朝日町の情報が欲しい」「ふるさとのおくもりを感じたい」といった声にお応えするため、町外在住者向けの広報あさひまちの定期購読を受け付けています。遠方にお住まいの家族や親類の方々にぜひご紹介ください。

- ▶料 金
年間1,680円（1カ月あたり送料140円）
- ▶申込み
下記へ電話またはメールなどでお申し込みください。後日、郵便振込取扱票をお送りします。
- ▶申込み先
政策推進課 総合政策情報係
☎67-2112
mail: inform@town.asahi.yamagata.jp

ふるさと納税 寄付実績報告

■政策推進課 ☎67-2112



昨年度より返礼品に追加されたりんごジュース

令和7年度の朝日町への「ふるさと納税」は、寄付件数8138件、寄付額は1億2510万円となり、令和6年度より244万円の増額となりました。

寄付者が希望する寄付金の活用事業は「町長におまかせ事業」（若者移住定住促進や学校給食の負担など）が最も多く、次いで「りんごワインの里の産業・観光事業」（各種まつりの開催にかかる経費や創業支援補助など）となりました。

いただいた寄付金は有効に活用し、魅力ある朝日町となるよう努めてまいります。

第1回 室内運動教室

■健康福祉課 ☎67-2116



7月23日、健康づくりの知識習得を目的とした「ヘルシーライフ教室（室内運動教室）」が役場ホールで開催され、11人が参加しました。

今回のテーマは「運動と生活習慣病」。まずは健康運動指導士の伊藤貢氏を講師に、「座りっぱなしを避け、適度に運動を取り入れることで健康効果が得られる」ことについての講話が行われました。

その後、「コンディショニング」という体の調整を目的としたストレッチや軽運動を実施。自宅でも簡単にできるトレーニングを体験し、参加者はしゃきとした姿勢で会場を後にしていました。

第1回 寿大学

■教育文化課 ☎67-2118



7月22日、中部地区の65歳以上の住民を対象に、生きがいづくりなどを目的とした「寿大学」が創遊館で開催され、約25人が参加しました。

今回は、声磨きインストラクターの資格を持つ地域おこし協力隊の間知謙太隊員を講師に、「発声トレーニングで健康づくり」と題し、呼吸のトレーニングや舌・口の運動を行いました。

誤嚥防止や脳の活性化にもつながる発声トレーニングに、参加者は「腹筋なども使うので鍛えた実感がある。簡単にできたので、家でも続けたい」と効果を実感していました。

▶「山才」のけんたうさん(左)、のりこさん(右)

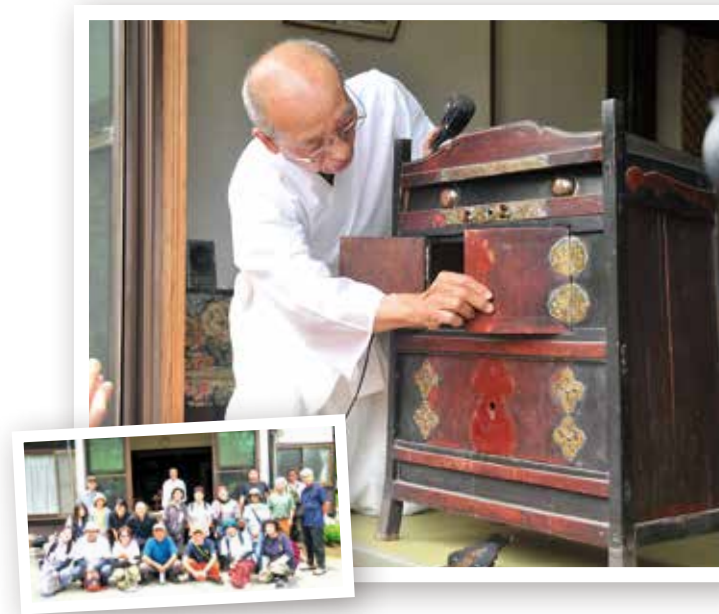


7/15 親子で一緒に楽しみ、郷土愛を学ぶ 大谷小学校 親子教育講演会

大谷小学校の全校児童を対象として、親子で学びを深める「PTA 親子教育講演会」が開催されました。

今回の講師は、新庄市を拠点に活動し、新庄弁を本格的なラップに乗せて発信するグループ「山才」。自分の「好き」を突き詰めてこの活動につながったというお二人による講演では、ライブ形式で歌を交えながら、地元を大事に思うことや言葉や方言を大切にすること、そして失敗を恐れないことなどが伝えられました。

この日参加した児童は「とても熱いライブとお話だった。曲の中には普段聞かない方言も多く出てきて、どんな意味なんだろうと興味をもった」と、目を輝かせていました。



7/5 源義経の足跡をたどる 朝日町の義経伝説を訪ねるツアー

町エコミュージアム案内人の会が主催する「朝日町の義経伝説を訪ねる」ツアーが開催され、町内外から約20人が参加しました。義経が平泉に逃れる途中で通ったとされる朝日町には、義経の正妻である郷御前が子を産んだと伝わる「子なし沼」(ハツ沼)と、武蔵坊弁慶が大沼の代行院に宿泊した際、宿代の代わりに残したとされる「弁慶の笈」の二つの伝説が残っています。

参加者は、案内人の会の安藤竜二さん(大谷第一)らの説明を受けながら、上記のゆかりの地を巡りました。大沼浮嶋稲荷神社第52代宮司の最上俊一郎さん宅に伝わる弁慶の笈の実物が披露されると、参加者はその貴重さと神々しい姿に感嘆の声を上げていました。



7/16 人権を意識する第一歩に 朝日中 車椅子バスケット体験会

寒河江人権擁護委員協議会(長岡輝美会長)が主催する地域人権啓発活動活性化事業の一環として、朝日中学校で車椅子バスケットボール体験会が行われました。

講師は、2021年開催の東京パラリンピックで車椅子バスケット女子日本代表を率いた岩佐義明ヘッドコーチ、宮城県仙台市に本拠地を構える車椅子バスケットチーム「宮城MAX」の伊藤明伸キャプテン、U23日本代表でも活躍する有吉奏太選手の3人。はじめに、講師が車椅子バスケットの基本的なルールや、車椅子とボールの扱い方を説明した後、生徒たちは車椅子に乗ってコートを一周し、シュートにも挑戦。リングの高さは通常のバスケットボールと同じであるため、いつも以上に腕の力の使い方に工夫が必要です。「選手たちのシュートは軽々とリングに届いていてすごい」と、生徒は感想を述べました。

その後、各クラス代表5人と講師の選手1人によるミニゲーム形式の試合を実施。プロの選手たちのスピードや技術を間近で感じる貴重な時間となりました。

体験会終了後、有吉選手は「今日の体験を通して、国籍や性別、障がいの有無に関係なく、誰とでも仲良く、楽しくプレーできることを感じてほしい。これが人権を意識する一つのきっかけになればうれしい」と話しました。



▲伊藤明伸選手



▲有吉奏太選手



◀岩佐義明コーチ



7/9 伝統的な服装で夏を楽しめるように 朝日中1年 浴衣着付け教室

朝日中学校1年生を対象にした浴衣の着付け教室が、町中央公民館の文化教室「着付け教室」の皆さんを講師に開催されました。

この教室は、実際に浴衣を着ることで和服と洋服の違いを学ぶことを目的に実施しており、今年で7年目となります。生徒たちは、講師から着付けの手順を一つずつ教わりながら、最後には全員が着こなせるようになったほか、男女の帯を交換しての結び方も習いました。

生徒は「手順も多く、難しかった。講師の先生に手伝ってもらって完成できたが、一人でこれを着られる人は本当にすごいと思った」と、驚きを交えて話していました。



7/11 新たなつながりを築く 海の子・山の子交流「海のつどい」

平成14年度から続く海の子・山の子交流事業「海のつどい」が、宮城県七ヶ浜町で行われました。

友好の町協定を結ぶ海の町「七ヶ浜町」と、山の町「朝日町」の小学生が互いの町を訪れ、地域の文化や自然を体験しながら学び、交流を深めるこの事業。今回は、西五百川小学校と七ヶ浜町立汐見小学校の4～6年生が交流しました。

子どもたちは、ヒラメの稚魚やアワビの稚貝などの見学を通して七ヶ浜町の特産である水産品の学習をしたほか、海岸での磯遊びやスイカ割りなど、海の町ならではの体験を楽しみました。10月には、汐見小学校の子どもたちが朝日町を訪れ、「山のつどい」が開催される予定です。



7/30

夏休みの始まりにみんなで集まる ボードゲームで 夏休みを楽しもう！ & まざれ～な食堂 in すぽっと

居場所づくり支援団体「まざれ～な」（若月加代子代表）が主催する、町内の小学生を対象とした「ボードゲームで夏休みを楽しもう！」と、町内初となる地域食堂活動※「まざれ～な食堂」が、みんなの居場所 すぽっとにて開催されました。

この日は約 35 人の児童が訪れ、多種多様なボードゲームに加え、将棋やカラオケなどを楽しみました。友だち同士はもちろん、まざれ～なのメンバーや、このイベントの運営に協力した大人たちと、ゲームを通して交流を深めました。

「まざれ～な食堂」では、9 人のメンバーが協力して食材を持ち寄って準備にあたり、おにぎりプレートを提供。ごちそうになった子どもたちは笑顔で平らげ、「おいしい！」「おかわり！」の声があちこちから聞こえる盛況ぶりでした。参加した児童は「夏休みに入っても、こうしてみんなと遊べて、一緒にご飯を食べる時間もあってうれしい」と話していました。

町で初めての地域食堂の取り組み。若月代表は、「子どもたちの元気な姿が見られて、実施してよかったと感じます」と振り返り、「今回は子どもを対象とした地域食堂でしたが、今後はすぽっとで行うほかの企画の際も実施するなど、対象を広げていけないかと考えています」と展望を語りました。

※地域食堂活動

地域住民やボランティアなどが主体となり、子どもから高齢者まで誰もが食事や団らんを楽しめるコミュニティの場。

8/2

親子でネイティブな英語に触れ合う ファン ストーリータイム Fun storytime!

朝日町立公民館が主催するチャレンジ講座の一環として、親子で楽しく英語を学ぶ企画が創遊館で開催されました。未就園児から小学校低学年までの親子を中心に、4 組・計 10 人が参加しました。

講師は、山形県内で英語教育を実施する佐藤由希氏と Brad Brooks 氏。児童たちは絵本を英語で読んだり、歌に合わせて体を動かしたりと、ネイティブな英語を話す講師とのコミュニケーションを通じて英語と触れ合い、楽しく学んでいました。また、保護者向けには、「家庭ではどのようにして英語に親しむべきか」というテーマで相談会も実施。親子で英語について学び、考える時間となりました。



7/17

今年も国道沿いに登場 前田沢区に交通安全力カシ

前田沢交差点近くの国道 287 号線沿いに、前田沢いきいきクラブの皆さんが制作した交通安全力カシが立てられました。“明るいやまがた”夏の安全県民運動期間に合わせて毎年設置されているこの力カシ。25 年目となる今年、童話「おおきなかぶ」を題材に制作されました。

当日は、同クラブの皆さん約 30 人が設置作業を実施。参加した住民は「5 月から集まってみんなで作ったものが、今年も無事に設置できてうれしい。力カシの表情づくりには苦労したが、その分それぞれ表情豊かなものになった。この場所は車だけでなく学生の通行も多いため、みんなに見てもらって、交通安全に十分気を付けてほしい」と話しました。

7/18

あれがデネブ、アルタイル、ベガ あさひ星空観望会 2026

朝日町エコミュージアム協会が主催する「あさひ星空観望会」が、Asahi 自然観のロッジしらくら前で行われました。

山形天文同好会が講師となり、天体望遠鏡で月や、はくちょう座の一部でもある二重星「アルビレオ」などを観察。また、肉眼でも見える夏の大三角やさそり座など、春から夏にかけての星や星座を眺めました。

当日は雨も心配されましたが、天の川もはっきりと見えるほどの好条件に恵まれ、参加者は「ゆったりと星空を眺められる時間は貴重で、心が落ち着いた」と、にこやかに語りました。

この会は 9 月 19 日（土）にも予定されています。申込みはエコルーム（☎67-2128）までお願いします。



◀当日は北斗七星もくっきり見えました

7/19

今年の島は「磐城之島」に 大沼浮島 島まつり

年に一度、湖畔から新たに「島」を切り出し、その年の吉方位にある旧国名にちなんだ名前を付ける伝統ある神事「島まつり」が、大沼の浮島で行われました。

今年の吉方位は南南東。神事は厳かな空気のもと進められ、新たな島は浮嶋稲荷神社の最上俊一郎宮司により「磐城之島」（現在の福島県東部～宮城県南部の旧国名）と命名されました。鈴木浩幸町長が名前を揮毫（※毛筆で書くこと）した木札は新たな島に立てられ、沼の中央へ。訪れた人々は、水面に漂う島を静かに眺めていました。区民は「国指定名勝となって 101 年目の新たなスタートだと考えている。区民も少なくなっていくが、力を合わせて維持管理を頑張りたい」と話しました。



憧れを持ち続けて—
開催通算 **10** 回目！

寺フェス'26

若宮寺（ハツ沼）を会場とした音楽フェス「寺フェス'26」が、8月1日、本堂の改修を経て2年ぶりに開催されました。

寺の副住職であり、音楽活動も精力的に行っている登坂尚高さんが「自分の力で音楽祭をできないか」「音楽で面白いことがしたい！」という想いを形にしてきた「寺フェス」。登坂さんの実家である若宮寺で、2013年から開催されています。コロナ禍などの影響により開催できなかった年もありましたが、今回で10回目の節目を迎えました。

イベントスタッフや会場の準備にあたるのは、登坂さんの家族や友人、そして音楽仲間や町の方などのボランティアの皆さん。今回は30人以上が集まり、来場者が心地よく音楽を楽しめる場を作るために力を合わせました。

当日の来場者は600人以上と過去最高を記録。登坂さんや銀杏BOYZ（峯田和伸）さん、青葉市子さんなど、6組の出演アーティストたちが奏でる音楽で自由に体を揺らし、ときには拳を突き上げて楽しんでいました。

ライブの中で「本当に忘れられない、最高の一日となった」と目に涙を浮かべながら語った登坂さん。出演者や来場者、そしてイベントスタッフに何度も感謝の言葉を繰り返し、その情熱に来場者から大きな拍手が上がりました。今年の寺フェスも、みんなの記憶に残る、忘れられない一日となりました。



当日、来場者に配られた特製うちわ▶





りんごの郷の担い手の桑山洋典です。今年、着任3年目となりました。

昨年は頸椎のヘルニアにかかってしまい中途半端な一年になってしまいました。今年、順調に研修作業を進めています。昨年よりもさらに天気が良く、3月の剪定から7月の仕上げ摘果まで一週間早めに作業が進んでいる状況です。

ただ、花の開花時期に天気が荒れていたせいか、花の先端に多く実がなっていました。中心花がつかないものも多いです。これからは葉っぱ



町地域おこし協力隊と桃色ウサビの「中の人」こと、佐藤恒平情報交流総合アドバイザーによる連載コーナー。日々の活動や朝日町での暮らしを語ります。

就農に向けての3年目、よろしくお願いします

りんごの郷の担い手 **桑山 洋典** (東京都出身)



我が家は今年、居住地区で班長に割り当てられており、いつもの道普請やスポーツ大会の他に、近所の神社へのお参りや衛生巡りといった、東京や横浜住まいの時にはあまり縁がなかったイベントへの参加や準備などにも、慣れないながらも参加しています。2〜3月頃に参加した朝日町の歴史教室と併せて新鮮で勉強になりました。

来年の就農に向けて時間はなくなってきましたが、残りの期間も研修作業と地区のイベントを頑張っていきたいと思います。よろしくお願いします。

取りや玉回し、そして収穫などが待っていますが、頑張って作業していきます。

体調はヘルニアによる痛みもありなくなりました。健康福祉課から頂いた一杯150グラムしか盛れないお茶碗と、昨年の入院時の病院食のおかげで、体重が2年で17キロほど落ち、すこぶる順調です。研修作業も軽快にこなせています。

気温が昨年ほど高くなっているということもあり、体への負担は小さくなっていると感じます。



我ら地域活性化起業人

町で活動する県外の民間人材が、自身の活動や町民の皆さんへの呼びかけなどを掲載します。

朝日町の恵みを、お土産に。

“ファン”ダブルヌードル誕生！

【今月の担当】株式会社 COCOL 伊藤 理花



今年度、株式会社朝日町総合産業開発では、朝日町を代表する新たなお土産品として、棚田米を使った「FANDERFUL RICE NOODLE」を完成させました。朝日町の豊かな自然の中で大切に育まれた棚田米の魅力を、もっと多くの方に届けたい。そんな思いから始まったこの取り組みが、たくさんの方々の協力に支えられ、ようやく形になりました。

朝日町らしさが詰まったこの商品が、県外の皆さんへの贈り物として町の魅力を伝えるきっかけになればうれしく思います。あわ



▲天日干し棚田米から生まれた米の麺



▲豊かな自然に囲まれた朝日町の棚田

せて、より多くの方に手に取っていただけるよう、ECサイトの改修など販売環境の整備を進めています。これからの地域の魅力を生かした商品づくりと情報発信を通して、朝日町の元氣と誇りを未来へつないでいきます。



山形交通をご利用の75歳以上の方へお知らせです

町では、75歳以上の山形交通バス利用者を対象に運賃の減免制度を実施しています。この制度を利用される際には、バス降車時に次のいずれかの書類を乗務員に提示していただく必要があります。

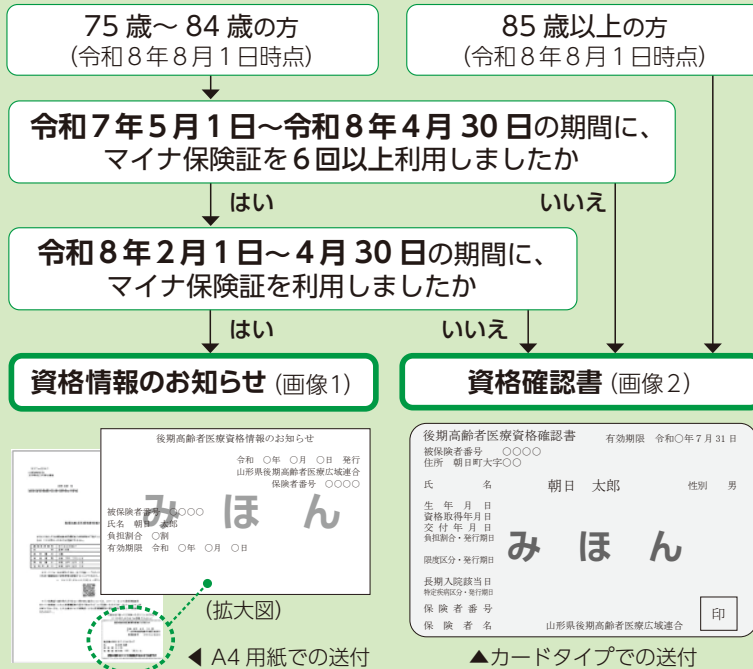
- ①「後期高齢者医療資格情報のお知らせ」(右画像1)
- ②「資格確認書」(右画像2)

交付されるものは、右図のとおり、利用者の状況に応じて判定されます。①、②どちらを提示いただいても運賃減免制度をご利用いただけます。

これらは7月下旬に健康福祉課よりご自宅へ送付されておりますので、ご確認ください。

▶問合せ：政策推進課 地域振興係 ☎67-2112

「資格情報のお知らせ」・「資格確認書」交付の判定



町立図書館新刊案内

第175回直木賞受賞作

「げんぐわい」

朝倉 かすみ 著

光文社

幼くして父を亡くし、手習い師匠の手伝いに出された痘痕の娘・ふゆ。師匠の養子で歪んだ性癖をもつ宗三郎から手籠めにされ懷妊するが、現人神と崇められる女医者と出逢い…

第175回芥川賞受賞作

「ブンビ回収婦」

小砂川 チト 著

講談社

わたしは来る日も来る日も、あなたたちの身体を回収する。終わらない労働、なんて素敵なんだろ。鋭い感覚と言語で独自の世界観を立ち上げる著者による物語。

「なっちゃんとなつこの空」

深山 さくら 著

下平 けいすけ 絵

校成出版社

児童クラブで飼っていたキアゲハの幼虫が行方不明に！ずっとかわいがっていたかずまは、友だちのれんくんを疑うのですが…。小さないのちを慈しみ育てる子どもたちの、まっすぐな心に胸を打たれる幼年童話。作者の深山氏は、上山市出身・山形市在住です。



【ブックテマコーナー】
たのしい夏休み
海に行こう！
山に行こう！

戸籍のまど

Asahi town

7月1日～7月31日届出

Obituaries

やすらかに

区 名	死亡者氏名	世帯主名
常 盤	齊 藤 雪 子	充 人
八ツ沼	阿 部 富士男	真理子
前田沢	成 原 孝 一	孝 行
大谷第三	白 田 昭 吉	弘 美
緑 町	千 葉 英 雄	一 美

掲載を希望しない場合は
届け出の際にお申し付けください

Population

人口と世帯数

●令和8年 7月31日 現在

※()内は先月比

人 口	5,528 人 (- 10)
男	2,770 人 (- 4)
女	2,758 人 (- 6)
世帯数	2,269 世帯 (+ 7)

----- 7月中の異動 -----

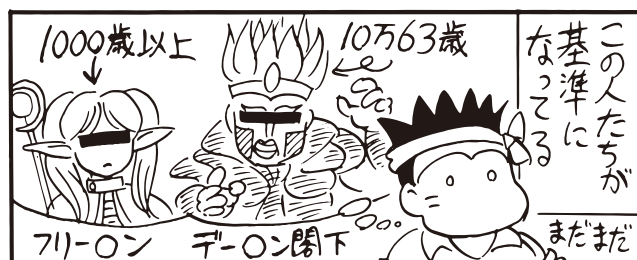
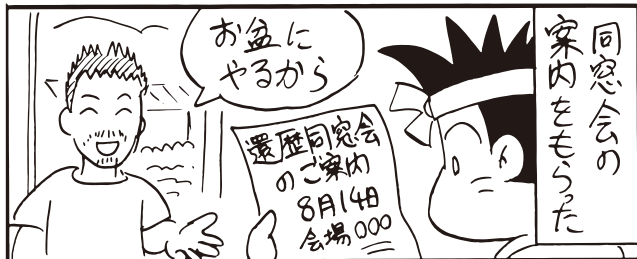
出生	0 人	転入	9 人
死亡	8 人	転出	11 人

(※外国人を含む)

となりのリンゴさん

(382)

ホリイ



周りの人にも想いを伝えて！

医療従事者も、その想いに寄り添います

【令和8年度 第5回】
今月の担当 … 高橋 潤 朝日町立病院院長

前回（令和8年4月号掲載）は人生会議（ACP）について、「どんな医療を受けたいか」を決めておくことではなく、「これからどんな人生を送りたいか」「何を大切にしたいか」を家族や大切な人と話し合うことから始まる、というお話をしました。

では、その大切な想いは、家族の中で共有していれば十分なのでしょうか。

実は、家族と話し合った内容を、かかりつけ医や看護師、ケアマネジャーなど、医療や介護に関わる人にも伝えておくことが大切です。

例えば、「できるだけ住み慣れた家で過ごしたい」「家族との時間を大切にしたい」「痛みや苦しみはできるだけ少なくしたい」「できることは、これからも自分で続けたい」…。このような一人ひとりの想いを医療者が知ること、病気になる必要になった時や生活の支えが必要になった時にも、その人らしい暮らしを続けるために何ができるのかを一緒に考えることができます。

医療では、病気を治すこと

▼朝日町立病院
☎67-2125

だけが大切なものではありません。その人が大切にしている生活や価値観を守ること、同じように大切です。

もちろん、一度話し合えば終わりというものではありません。年齢や健康状態、家族の状況によって、考えや希望が変わることもあります。その時々、必要に応じて医療や介護に関わる人と共有していくことが、人生会議では大切です。

医療者は、「治療を決める人」ではありません。皆さんが大切にしていることを理解し、その想いを実現するために一緒に考えるパートナーです。診察の時には、そんな日々の願いや大切にしていることを、ぜひ気軽に話してみてください。その想いを支えるためにどうすればいいかを一緒に考えます。

その何気ない一言が、その人らしい医療やケアにつながる大切な第一歩になります。

第39回 高木の天満宮（大谷第三）

【所在地】大谷第三区(高木)集落の南端、地区内の道路から入る参道の入口に「天満宮参道」の文字が彫られた石の標柱がある

参道を進むと奥に天満宮の社殿があります。創建については史料などが少なく不明です。御堂の中には内陣が置かれ、その中に天神様が祀られ、前には鏡が置かれています。内陣の後ろの壁に「天満宮」の額が掲げてありますが、その大きさや古さから見て、昔の建物にあったものと思われます。合格祈願や家内安全を祈る大きな絵馬がいくつか奉納されており、地区民の信仰のあつさがうかがえます。



例祭日は2月25日前の日曜日とされ、地区全戸加入の天神講が運営にあっており、毎年当番が世話役を務めます。

うさひのゆ3つと解説

高木地区の天満様ができた時期は史料がなく分かっていないんだけど、元禄7（1694）年、江戸時代中期に書かれた『大谷往来』に「…沢を伝って増を上がれば高木の天神…」と書かれていることから、その頃には大谷四天神の一つとして祀られていたみたいだよ。



11月の芸文祭で成果を披露 県民歌「最上川」を歌おう

11月3日の町芸術文化祭での発表に向け、山形県民歌「最上川」の練習会が行われました。主催する山形朝日音楽部が、今年の山形県政150周年を記念して企画したもの。今回は8人が参加し、参加者同士で音程などを確認しながら何度も繰り返し練習していました。本番に向け、練習は今後も定期的に行われます。



命の大切さを学ぶ 朝日中 PTA 教育講演会

7月29日、朝日中学校で生徒と保護者を対象に、高橋潤町立病院院長を講師とした講演会が開かれました。社会的つながりが健康や寿命に与える影響の大きさについてデータを用いた解説があり、参加した生徒は「周りの人々と笑顔で関わる時間を、より大切にしたい」と感想を話していました。



夏本番！
たくさんのにぎわいあふれる

緑が丘公園で 夏まつり開催

7月19日、星の会（成原千枝代表）が主催する夏まつりが、緑が丘公園で開催されました。

当日は17の出店が登場。グルメやスイーツ、ハンドメイド品の販売のほか、ボランティアで参加した中学生による射的・ヨーヨー釣りも。また、輪になってあさひ音頭や花笠踊りを踊る盆踊りのほか、子どもたち向けの水鉄砲遊びや手持ち花火のプレゼントなど、夏を満喫する企画が盛りだくさんでした。

今年の来場者は約1,000人と、この催しが始まって以来の最高人数を記録。町内外から親子連れを中心に多くの人々が訪れ、会場にはにぎやかな声と音が響き渡りました。



春夏秋冬 編集後記

新たな体験から
刺激をもらいました

身の引き締まる思いで微力ながら協力させていただきました。
そして今月は朝日ナチュラリストクラブを特集し、それに向けて二日間の夏キャンプに密着しました。参加していた子どもたちのほじける笑顔が忘れられません。私も子どもたちと深く関わりましたが、その元気さと自由なひらめきに何度も驚かされました。私もそんな自由な発想で、「面白い」と思ってもらえる広報紙を作れるよう頑張りたいと、改めて決意した二日間でした。

白田 一暉

先日行われた「寺フェス」で、広報としての取材の傍ら、私もスタッフとして会場設営や物販のお手伝いもさせていただきました。私自身、音楽が好きでライブにはよく行きますが、スタッフとして関わるのは初めて。運営する側に立って初めて気付くことも多く、本当に貴重な経験になりました。こんなにアットホームな雰囲気を感じられるフェスは、そう多くないと思います。主催者である登坂さんの気配りやスタッフの皆さんの温かさが、この素敵な場所を生み出しているのだと感じ、私も

